

日本みつばちの会だより



～本会は以下を目的として活動しております～

- ①ニホンミツバチの生態研究と保護繁殖
- ②ニホンミツバチを接点とする会員同士の研修交流
- ③ニホンミツバチを通しての自然環境保全と社会的貢献
- ④ミツバチ産業の健全育成の推進



蜂蜜ショップ「岩手の藤原、みつばち三代」

全ての生き物に厳しい猛暑ですが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。
さて、すでにお知らせしていますが、令和5年5月初め、当会は現在の場所（盛岡市本町通の小笠原ビル）に移りました。
古いビルですが、スペースはあるので、歴史を感じられる養蜂具や貴重な資料などを展示できればと考え、少しずつ準備して、この度ようやく公開できる見通しが立ちました。

一般社団法人 日本在来種みつばちの会

〒020-0015 岩手県盛岡市本町通1-11-25 小笠原ビル2F
ミツバチの生態、飼育や当会の製品についてのご質問は、
★ 090-1060-6031（会長 藤原誠太）まで。
当会の製品のご注文、入会・退会希望等については、
★ 080-8254-8033（事務局） ★FAX 019-681-8829
e-mail hachinokai@kbf.biglobe.ne.jp
郵便振込 02320-7-23621 名義 日本在来種みつばちの会
年会費 3,800円

一般社団法人日本在来種みつばちの会の
養蜂関連「資料館」が完成間近です！



1階の資料室に並ぶ図書や資料。書棚はリング箱で作られています。

万年の資金不足のため、協力してくれる方との手作りでです。1階は屋上までと隣接の店舗も含めて、ギャラリー的な養蜂関連の資料館を目指す事になりました。主な内容は、1階が図書

考えています。
一般の方や学生、養蜂に興味のある方々に来場していただけるように企画しています（所用時間は1時間程度）。
見学科（予定）は、講習会、資料室見学、蜂・養蜂見学（50gの蜂蜜のサンプル付き）のコースで、一般・大学生2000円、中学・高校生1500円、小学生1000円、幼児は無料です。会員の方は会員割引があります。（要予約 所用時間や内容は相談に応じます）。講師は内容により会長、または



上 事務所で飼育するニホンミツバチの群れ。中 捕獲したスズメバチの巣の展示。下 1階の入口では藤原会長がお出迎え（等身大パネル笑）。

事務局が担当する予定です。まだ不備な部分が多々ありますが、資料館が何とか形になったのは、多くの会員の方がご支援くださった



からです。心よりお礼申し上げます。特に次の方々に協力いただきました。
中村寛さん、藤原正義さん、澤村洋さん、菅蒲沢栄さん、藤原和孝さん、後藤純子さん、野々山純さん、杉沼えりかさん、事務局。
貴重な物品を寄贈してくださった方々に感謝致します。
天野和宏さん（蜂の標本）、深澤登博さん（日本養蜂新聞編集）、故川嶋辰彦学習院大学名誉教授（オオミツバチやハリナシバチ等の巣）。会員ではありませんが、小野力也さん（ローラー式巣礎作製機等）。

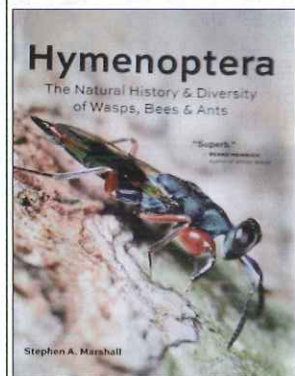


上 アメリカ製ローラー式巣礎作製機。左 ニホンミツバチの様々な巣箱。下 屋上はセイヨウミツバチの養蜂場。

★山根正気さん(鹿児島大学名誉教授 分類学の権威)に「ハチの分類あれこれ」と題して寄稿していただきました（前編）。

ハチといえば多くの人は、人類に大きな恩恵を与えているミツバチ（ハナバチ）の仲間や、人を襲うスズメバチなどを思い浮かべるでしょう。生態系のバランスに興味をもつ人は、色々な昆虫やクモに寄生するコバチやヒメバチなどの寄生バチを思い起こすかもしれません。幼虫が植物を食べる「原始的」なキバチやハバチの仲間は体の大きな種を多数含むにもかかわらず、意外と知名度は低いようです。アリがハチの仲間、シロアリがゴキブリの仲間であるのは当然ご存知ですね。膜翅目（ハチ目）は昆虫の中でも最も多様性の高いグループの一つです。鱗粉をもたない4枚の膜状の翅をもつのでこの名があります。ハエ・アブ・カの仲間も似た翅を持っていますが、翅は2枚しかありません。

さてハチの仲間は世界に何種くらいいるのでしょうか。近著『膜翅目：ワスプ・ハナバチ・アリの自然史と多様性』（2023）の著者、カナダのゲルフ大学名誉教授スティーブン・A・マーシャル先生によると（ワスプには適切な訳語がありません）、現在知られている膜翅目昆虫は世界でおよそ16万種。昆虫全体でおよそ95万種ですから、その16.8パーセントに相当します。しかし、ここに掲げた種数は、あくまでも名前（学名）のある種（既知種）の数です。実際には地球上に存在する昆虫や膜翅目の種数ははるかに多いと考えられており、数倍、十倍など議論百出ですが、真相はだれも知りません。16万種を擁する膜翅目は2つの亜目（広腰亜目と細腰亜目）、50の科、約8500の属に分類されます。この数字だけでも、膜翅目がいかに巨大で多様なグループであるか分かります。



膜翅目の分類体系は幾多の変遷をへてきましたが、近年における再編成には目を見張るものがあります。例えばアリ科はかつてスズメバチ上科に近いとされてきましたが、現在ではミツバチ上科の隣に置かれています。そして、アリ科のなかの亜科・族・属などの関係は原型をとどめないほどの改変を受けました。キバチやハバチからなる広腰亜目は実は系統的なまとまり（単系統群）ではなく、その一部は細腰亜目と共通祖先をもつと考えられようになりました。こうした変更には、洗練された形態比較も一役買っていますが、近年急速な発展をとげたDNAの解析が大きく関わっています。最近では、核遺伝子に散在する変化が少ない（進化速度の遅い）超保守的な遺伝子をまとめて解析する方法が使われ、これまで系統解析にしばしば使われてきたミトコンドリアCOI遺伝子解析に取って代わりました。ただ、系統は歴史であり、系統関係は歴史の結果ですから、解釈には注意が必要です。系統の研究は純粋自然科学と思われがちですが、実際は歴史科学であり、系統仮説の検証は

マーシャル博士の大著（S. A. Marshall 'Hymenoptera: The Natural History & Diversity of Wasps, Bees & Ants', Firefly Books）の表紙カバー。世界のハチ・アリのすべての科について解説した、とてもありがたい本です。

時に非常に困難（または不可能）なので、新分類体系もそのことを念頭に「受容」すべきでしょう。

★高橋純一さん（京都産業大学准教授）より「生態系サービス研究センター」設立のお知らせを頂きました。

2025年4月、ミツバチやハチミツに関する学際的な研究を推進する新たな拠点として「生態系サービス研究センター」を設立しました。本センターは、ミツバチがもたらす多様な「生態系サービス」に着目し、持続可能な社会の実現と地域社会への貢献を目指します。

◎ミツバチを切り口に、学際的・先端的研究を推進

センター長を務める高橋純一准教授（生命科学部）は、ミツバチの生態、送粉行動、ハチミツの品質や機能性、文化的意義などに関する研究を長年にわたって展開してきました。ミツバチは、花粉交配を通じて生物多様性の維持や作物の安定生産に寄与する重要な存在であり、環境・農業・健康・文化といった複数の社会課題に密接に関わっています。

本研究センターでは、DNA分析や次世代シーケンス技術を活用し、ハチミツの品質評価、安全性の検証、生物多様性のモニタリングなどを推進しています。また、経営学部や現代社会学部など、分野を超えた専門領域の教員が連携し、送粉サービスの経済的評価や、生態系サービスに関する実践的・応用的研究も進めています。サプライチェーンの構築や販売戦略まで含めた、学際的な研究展開が本センターの大きな特徴です。

◎地域・企業・学生との連携による社会実装の展開

研究センターのもう一つの大きな柱が、研究成果の社会実装です。大学キャンパス内で飼育するミツバチから採れた「京都産大ハチミツ（仮称）」を、品質・安全性の観点から科学的に分析し、ブランド化・商品化することを目指しています。また、スポーツ栄養や女性の健康を支える食品の開発にも着手しており、今後は地域や企業との連携を通じて、製品化や普及に向けた展開を進めていきます。こうした取り組みには、学生の活動とも連携しながら、実践的な視点を取り入れた開発が行われています。

◎教育・文化の現場へ広がる生態系サービスの価値

本センターでは、和歌山県のみなべ町・田辺市の世界農業遺産「ウメシステム」と連携し、梅とミツバチの共生に着目した関連商品の開発や、地域の関係機関と連携したスタディツアーの企画に取り組んでいます。一方で、ミツバチや送粉サービスに関しては、その経済的価値や環境保全効果を調査し、企業研修や学校教育に活用できる教材や普及啓発ツールの開発を進めています。これらの取り組みを通じて、生態系サービスの理解促進と地域との協働を推進しています。

◎生態系サービス研究センター構成員

高橋 純一（センター長／生命科学部 准教授／保全生態学） 三瓶 由紀（生命科学部 准教授／環境農学）

西田 貴明（生命科学部 教授／環境政策学） 中野 幹久（経営学部 教授／経営学） 松島 佳子（現代社会学部 教授／栄養学）



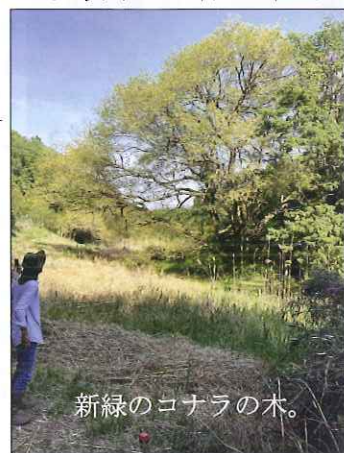
御園孝さん(埼玉県造園家)が解説する「蜜源植物の話」第60回は風媒花の「クヌギとコナラ」です。

武蔵野の属林の代表的な樹木であるクヌギとコナラ(両方ともブナ科で4〜5月に開花)は、薪にしかない役立たずと言われて、人里ではバサバサと伐られ続けていました。しかし、伐り続けていると、萌芽力が強く常に再生して元に戻るため、薪に困らないことに気がつきました。林を区別して18年ごとに伐る事で、丁度良い太さの薪がいつも取れました。役に立たないというのは人間の勝手、農家にしてみれば大量の落ち葉で堆肥が作れる有難い存在です。落ち葉をゴミと思う町の人が、役立たずと思ったのでしょうか。



上 クヌギの花。中 コナラの花。下 5月半ば、樹液を飲むオオスズメバチの女王蜂。

クヌギとコナラはドングリが沢山なり、リスやネズミなど森の生き物たちに餌を供給します。ドングリはそれ以外に、子供たちの大切な遊び道具でもあります。春先にクヌギとコナラの木から大量に出る、濃く甘い樹液を求め、冬眠から覚めたオオスズメバチの女王蜂がやってきます。花の蜜は一つ一つが少なすぎますが、樹液なら1箇所吸い続けられる利点があります。夏が来ると、カブトムシやクワガタなどが加わります。春先に咲くカタクリやヒトリシズカなどを眺めたくて森に入ると、必ずオオスズメバチの女王蜂が樹液を吸っています。大体が人の目に触れる高さなので、怖いと思



新緑のコナラの木。

思い避けて通ります。しかし、女王蜂は半年の冬眠から覚め、空腹を満たすために夢中になって樹液を吸っています。たった1匹で巣作りし、卵を生んで餌を取り、子育てしなければなりません。オオスズメバチの成虫は、肉食の幼虫のために獲物を獲って幼虫に与えます。幼虫は獲物を消化して液体として吐き戻し、成虫はその液体を腹部の間が細くくびれていて固形物が通過できないのです。この生態を「栄養交換」と言います。

なので、幼虫がいない時期には成虫は、花の蜜や樹液を餌にするのです。

藤原愛弓さん(宮城県理事)のレポート第34回目は、長期戦となった今年の分封群捕獲についてです。

今年4月、私が講師を務める石巻専修大学構内の数ヶ所に、許可を得てニホンミツバチ捕獲用の巣箱を設置しました。大学教員の仕事の合間に時折巣箱を見回り、巣箱の調整等も行いました。しかし、4月から5月にかけて、構内に設置した巣箱への偵察蜂の飛来を私の方で直接目視できたのは、わずか1匹のみでした。

5月には、巣箱とともに設置していた植物のキンリョウヘンの開花時期が終わってしまいました。そのため、当会で開発された人工キンリョウヘンを誘引の頼りにしつつ、諦めずに巣箱の設置を続けました。

すると、6月に入り突然動きがありました。学生実習が終了した7日の夕方、数日ぶりに巣箱を見に行くと、周囲を偵察蜂が複数飛び交い、巣箱の入り口を出入りしているのも確認できました。ついに群れが入居する可能性がでてきた！とても嬉しい気持ちになりました。まずは偵察蜂が巣箱に来てくれることが、入

居の第一ステップだからです。しかしここから、偵察蜂たちの動きに翻弄されることになりました。

構内に数ヶ所仕掛けた巣箱のうち、6月から偵察蜂の飛来が確認されたのは2つで、2地点間の距離は直線距離で約400m離れています。入居の様子を学生たちに見せたいと思い、ビデオカメラを設置し出来る限り撮影していましたが、この2つの巣箱間で何度も偵察蜂の増減が繰り返されました。片方の巣箱に働き蜂が一斉に数十匹程度偵察に来たと思いきや、少し後にはほとんど来なくなり、もう1つの巣箱に多くの蜂が飛来するということが何度も繰り返されました。

このように偵察蜂はかなり来ていても入居しない状態がしばらく続いたある日のこと。私は用事で、16時頃には大学を出なければならず、ビデオカメラを設置して、巣箱の様子を撮影しました。すると翌日、なんとニホンミツバチの群れが入居していました。ビデオカメラの映像と時間を確認したところ、私が大学を出てすぐ、16時半過ぎに分封群が入居していました。その際、未交尾女王蜂も一緒に巣箱に入ったことが確認できました(写真の黄色の丸印)。



ビデオから切り取った写真。

現在、その女王蜂は無事に交尾し、さらにその後、もう1群が入居して両方とも産卵育児を始めています。最近では気候変動やアカリンドなど諸々の影響もあって、分封時期は以前よりもばらつく印象があります。また、夏近くになると孫分封や逃去群が入居する可能性もあります。なかなか入居しない場合も、誘引のための人工キンリョウヘンを設置するなどして、あきらめずに待つことが大切だと思います。

本のご紹介(ハチ関連の本が次々と出版されています)

「もしもハチがいなくなったら？」

横井智之著 岩波書店

2025年3月刊 968円（税込）

食料の生産を助けるだけでなく、生物多様性を維持するのにも重要なハナバチの役割に目を向け、その危機的な状況や保全の取り組みを紹介する。



「ハチは心をもっている」

ラース・チットカ著

今西康子訳 みすず書房

2025年2月刊 3960円（税込み）

ハチは「群知能」だけでなく、1匹1匹も高度に進化した心をもっていることをハナバチの認知研究の権威が説き明かす。

「ミツバチはこんなに楽しい！」

人と街を育てる都市養蜂プロジェクト

高橋進編著 日経サイエンス社

2025年3月刊 2200円（税込）

東京・赤坂のテレビ局屋上でのミツバチプロジェクトの10数年に及ぶ活動を紹介。佐々木正己先生も登場！



★事務局が会報誌5月号を作成、発行した。

★16/4/28 田中淳夫理事が副理事長を務める銀座ミツバチプロジェクト主催のオンライン「全国ミツバチプロジェクト会議」が開催され、会長、理事、会員、事務局が参加した。

★6/22 シヤリニア・ポスターさん主催の「エコ市庭」が自宅古民家（花巻市）で開催され、会長と事務局が参加し、蜂蜜を販売した。プ

★6/14 6/15 みどりのゆび（会員のグロッセ龍太さんが代表）主催の「ガーデン&マーケット」が花巻市で開催され、会長と事務局が参加、蜂蜜を販売しながら日本みつばちについて解説した。

☆その他、会員の来訪や質疑応答への対応、ニホンミツバチの保護活動、資料室の整備など、様々な活動を行っています。

★4/22 他6回、高安和夫理事が代表を務める（一社）みつばち協会主催のオンライン勉強会が開催され、理事、会員が参加した。会長は6/3の回に参加した。

★6/4 公益社団法人神奈川県ベストコントロール協会主催の「ムシの日イベント」（横浜駅）に事務局の藤原や会員が参加、広報活動をした（5ページ参照）。



ユリノキ

Bee space

Bee space（ビースペース）とはミツバチの巣と巣のすき間のこと。すき間のコラムです。

今年は6月から猛暑。外出時は木陰を探してしまいます。たった1本の樹でも木陰に入ると涼しく感じますが、日向より木陰の方が、体感温度が何と約7℃も低い場合があるそうです（街路樹の暑熱緩和効果に関する調査研究 1994）。樹の存在はありがたいですね！

ニホンミツバチの本来の住処は、主に樹の洞（うろ）。でも洞ができるような太さの樹は減ってしまいました。その影響なのか、電柱に棲みつくことがしばしば見られます。確かに外観も中の空間の広さも、自然の樹洞や人が作る樹洞の巣箱に似ています。でも材質や熱伝導率等は異なりますね。例えばスギの熱伝導率は0.12、コンクリートは1.6です（単位はW/m・K）。

断熱性能には厚さも関係していて、厚さ2cmのスギ板と厚さ26cmのコンクリートが同じ断熱性能という事に。となると、厚さ5cm程のコンクリートの電柱は、夏、熱くなり中で巣落ちしたり、冬は冷えてしまうのではと心配になります。藤原愛弓理事によると、実際に日当たりが良い電柱に入居した群れが、暑さに耐えかねて逃去する場合があるとの事です(写真 右下)。

昨年の5月、私は分封群が電柱に入居するのを偶然見ましたが、その電柱は木立の中に立っていて、まるで本物の樹のよう。ここなら猛暑時でも体感温度は下がるはず。この電柱の群れは無事に越夏、越冬して現在も



元気です。場所はとても大事だと実感しました。

インターネットで電柱のことを調べると、日本には約3600万本の電柱があり、しかも年々増えているとのこと。確かにどこも電柱だらけです。さらに驚いたのは、ロンドンやパリ、香港などは、無電柱化が100%なのに、日本は一番進んでいる東京23区で、たったの8%だそうです。東日本大震災では約56000本の電柱が倒れ、停電や緊急車両の交通障害など、救助作業を阻害したと報告されています。

ニホンミツバチが棲む電柱のことから、あまりにも大きな問題を知ってしまい、衝撃を受けました。災害の多い日本で、この状況はまずいのではないのでしょうか・・・（事務局 藤原由美子）



右太い方は樹に似せた電柱。左電柱の中。



上と右 本物の樹の様に木立の真ん中に立つ電柱。この電柱に分封群が入居した。下 日が当たる電柱から暑くて出てきた蜂。



撮影 藤原愛弓さん

会員の皆様からのおたより・報告

★3月に賛助会員として入会してくださった公益社団法人神奈川県ペストコントロール協会様から「虫の日イベント」の報告をいただきました。このイベントに事務局の藤原や会員が参加、PR活動をさせていただきました。

『日本ペストコントロール協会は、毎年6月4日から7月4日までを「ムシナシ月間」として害虫・害獣駆除の強化月間として定めており、全国の協会ではそれぞれ趣向を凝らしたイベントを実施し、普及啓発に努めています。当協会では、平成18年以降、そごう横浜店正面入口前の広場において、「人に不快な虫・獣展」として、毎年6月4日を中心に「虫の日イベント」を実施しており、今年は3千人近くの皆さんにペストコントロールへの理解を深めていただく機会となりました。

会場には獣類、鳥類、ネズミ類の剥製やスズメバチ、アシナガバチの巣や様々な害虫の標本をはじめ、シロアリや獣類の駆除風景、樹木害虫の食害の状況等の写真で構成したパネル展示に加えて、「虫ムシ描こうコーナー」では、お子さんが描いたムシや好きな絵を担当の会員がオリジナルの缶バッジに仕立て、プレゼントし好評をいただきました。日常生活の中で衛生害虫などの被害に悩んでいる様子の人も多く、各コーナーに待機した会員が相対で懇切に説明や助言を与えるなど、盛況のイベントになりました。

今回、「みつばちの会」事務局に、みつばちの巣枠を持参していただき、活動内容をPRしていただきました。これは、「人の生活に害を与える有害虫獣を制御する」ことを目的とする当協会が、SDGsの理念でもある「陸の豊かさを守る」事業にも積極的に関与していきたいと考えることから、農作物の受粉やハチミツの採集など生活に豊かさを与えてくれる益虫でもある「みつばち」の保護活動に取り組む同会の賛助会員になったことから実現したものです。ガラスケース内の生きたみつばちの様子を熱心に見る来場者が多く、関心の高さが窺えました。

当協会では昨年、1万件を超える害虫・害獣に関する電話相談を受けました。今後、みつばちに関する電話相談において、駆除を希望されないお客様については、住所地を勘案して協力いただける当協会の会員を紹介したいと考えております。』



原島会長(前列中央)・協会員と「みつばちの会」藤原事務局長(会長の左側)。



上 生きているみつばちの巣枠を熱心に見る来場者。下「虫ムシ描こうコーナー」での缶バッジ作成。

★舂本哲也さん(福岡県 山田緑地みつばちプロジェクト代表)より、プロジェクトの活動についてご報告いただきました。

・北九州市立山田緑地について

私たちがみつばちプロジェクトを進めているのは、福岡県北九州市小倉北区の都市公園北九州市立山田緑地です。

山田緑地は、約140haの広大な緑地で、ニホンミツバチの蜜源であるシイ、タブ、カシなどの照葉樹林が広がっています。

・プロジェクトの目的

山田緑地のみつばちプロジェクトの目的は以下の5つです。

- ①日本全国で減少しているニホンミツバチの復活
- ②ニホンミツバチの飼育技術の研究
- ③森の仕組みや生態系などの環境教育の推進
- ④ニホンミツバチを活用した地域資源の開発
- ⑤みつばちプロジェクトネットワークの構築



・勉強会

プロジェクトでは毎月第一日曜日に勉強会を開催しています。ミツバチの生態や飼育技術を学び、飼育や採蜜の実践を行い、年に数度はスペシャリストをお招きしたイベントも開催しています。

・初心者講座

毎年、1月～3月の分封前には、山田緑地で初心者を対象として飼育講座を開催しています。この講座は全国から来園を頂く人気の講座となっています。



・採蜜体験

採蜜時の9月には、一般の参加者を募りニホンミツバチの重箱式巣箱からの採蜜体験を行っています。

・こどもミツバチ博士講座

毎年夏休みには環境教育講座として、こどもミツバチ博士講座を開催しています。小学生を対象としたこの講座では、主にミツバチの生態、山田緑地の生き物の食物連鎖、ミツバチと人との関わりなどについてお話ししています。

・その他の活動

福祉の事業として北九州市内の障害者支援施設での養蜂指導を毎月山田緑地のボランティアさんと活動しています。また、北九州市周辺地域の市民農園団体や都市公園との交流も積極的に行っています。



★望月建彦さん（愛知県中部 日本みつばちの会副会長）からいただいた報告です。

『当会は、外来種アカリシダニによって絶滅の危機に瀕するニホンミツバチを保護するため、分封捕獲を積極的に行っています。』

現状、愛知県のほぼ全域では自然界のニホンミツバチの数は激減しています。かつては縁の下や石垣・墓石の中等、多く見られました。現在ではアカリシダニの影響で越冬できずとして分封に至らないのが通常です。15年程前には名古屋市内で市街地での分封が多



分封捕獲板の分封球と望月さん。

て待ち箱（キンリョウ

上木に集まった分封球。下タモ捕獲で巣箱に入れる。



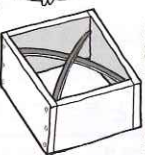
く、4〜6月の分封時期には1日に数件の捕獲を行うほどでした。しかし、2013年頃からアカリシダニの感染が拡大したため、市街地での分封はほとんど見られなくなり、飼育群以外でニホンミツバチを目にすることは稀になりました。

この状況から、当会では飼育群の分封を増やす為、新分封群は1年間は採蜜を控え分封数を増やす様にしています。そして、春先オス蓋が確認されると分封を予測し、気温が20℃以上の暖かく、雨の前後や風の

ない穏やかな日の午前10時から午後2時頃を中心に、積極的に分封球の確認をする。その方法は、①薄暗い1〜2mの場所に仕掛ける分封捕獲板 ②蜂が蜂球を作りやすい木（柿、桜、梅等）③逃

巣落ち防止棒①

50年前に父が使っていたのは竹を削って作ったが5ミリの棒だった。最近の暑さはハンパないので先輩方に相談すると



以前は3ミリの金属棒を十字に渡してたけど今は猛暑対策で8ミリの丸棒を十字にしているよ。S先生、K先生、私は自作のちみじの竹ヒゴを井形に組んでます。

竹ヒゴの方が安上がりなのでチャレンジしてみたが……。師匠、裏庭の竹でやってみただけでうまくできませ〜ん。

使うのはもったいない。モウリウツだよね。それを6等分して3か月くらい日陰に置いて油抜きしておかなくちゃ。前途多難!!

★坂本香代子さん（山口県）の「養蜂4コマ漫画」第3弾です。落下防止棒にも色々なタイプや工夫があるんですね!

もし分封を見逃してしまつた場合は、待ち箱と誘引剤（キンリョウヘンや市販の誘引剤）をセットで、蜂が

入りやすい場所に設置し、捕獲の機会を確保します。こうした取り組みにより、当会では毎年150前後の分封群を捕獲しています。捕獲実績としては、分封板による捕獲が7〜8割、待ち箱と誘引剤による入居が1〜2割です。』

※5月28日付けのメールもご紹介致します。望月さんの会では、会員全員がメールで情報共有しています。『分封も一段落と思われ

たが、以前には殆どなかった孫分封が異常に多発する、こんな情報が皆さんから寄せられています。この孫分封とは、今年の新分封群が再度分封する事。4月に分封した群や、分封が終了した元巣がそれぞれ1月ちよつとで成長して又分封する。こんなことはあまりなかった。早くても6月過ぎかと思っていたが、今年は5月

から多発している。もう分封は終わつたと思ってる方は要注意です。分封することと群数が増えることはいいいが、これから夏に向かい子育てする花蜜があるか不安である。よく観察して分封を捕獲しましょう。自然界に放しても農業やアカリシダニでも農薬やアカリシダニで年越しをしても分封まで生きるかどうか?』

★小阪次郎さん（徳島県）から、昨年11月にいただいたメールをご紹介します。『私の所は今年はスズメバチが少なく、黄色スズメバチは時々しか来なかった。去年は黄色ばかりで、網で捕るしか無く困りました。大スズメバチは10月下旬から来ていたが、粘着シートで捕れるからやり易い。スズメバチも強い群は避け、

現在飼育中は、一昨年から群は0、去年からの群は4群、今年捕獲の5群で9群です。巣箱はコンテナの上に置いて、底板は引き出せるような構造です。下から鏡を差し込み懐中電灯で照らすと中の様子がよく見えるし、掃除もし易いです。継箱は写真のようにパイプ3本に吊上機を付けて、一人作業で持ち上げられます。』

※現在ではもらった群を含め17群を飼育中だそうです。

勢いの無い群を襲いますね。今年のハチの状況は、西洋バチに1群、スミスに2群やられ、自然消滅が5群、巣落ちで逃去が1群、ハチ仲間にあげたのが1群。

現在飼育中は、一昨年から群は0、去年からの群は4群、今年捕獲の5群で9群です。巣箱はコンテナの上に置いて、底板は引き出せるような構造です。下から鏡を差し込み懐中電灯で照らすと中の様子がよく見えるし、掃除もし易いです。継箱は写真のようにパイプ3本に吊上機を付けて、一人作業で持ち上げられます。』

※現在ではもらった群を含め17群を飼育中だそうです。

勢いの無い群を襲いますね。今年のハチの状況は、西洋バチに1群、スミスに2群やられ、自然消滅が5群、巣落ちで逃去が1群、ハチ仲間にあげたのが1群。

現在飼育中は、一昨年から群は0、去年からの群は4群、今年捕獲の5群で9群です。巣箱はコンテナの上に置いて、底板は引き出せるような構造です。下から鏡を差し込み懐中電灯で照らすと中の様子がよく見えるし、掃除もし易いです。継箱は写真のようにパイプ3本に吊上機を付けて、一人作業で持ち上げられます。』

※現在ではもらった群を含め17群を飼育中だそうです。

勢いの無い群を襲いますね。今年のハチの状況は、西洋バチに1群、スミスに2群やられ、自然消滅が5群、巣落ちで逃去が1群、ハチ仲間にあげたのが1群。

現在飼育中は、一昨年から群は0、去年からの群は4群、今年捕獲の5群で9群です。巣箱はコンテナの上に置いて、底板は引き出せるような構造です。下から鏡を差し込み懐中電灯で照らすと中の様子がよく見えるし、掃除もし易いです。継箱は写真のようにパイプ3本に吊上機を付けて、一人作業で持ち上げられます。』

※現在ではもらった群を含め17群を飼育中だそうです。

勢いの無い群を襲いますね。今年のハチの状況は、西洋バチに1群、スミスに2群やられ、自然消滅が5群、巣落ちで逃去が1群、ハチ仲間にあげたのが1群。

現在飼育中は、一昨年から群は0、去年からの群は4群、今年捕獲の5群で9群です。巣箱はコンテナの上に置いて、底板は引き出せるような構造です。下から鏡を差し込み懐中電灯で照らすと中の様子がよく見えるし、掃除もし易いです。継箱は写真のようにパイプ3本に吊上機を付けて、一人作業で持ち上げられます。』

※現在ではもらった群を含め17群を飼育中だそうです。

勢いの無い群を襲いますね。今年のハチの状況は、西洋バチに1群、スミスに2群やられ、自然消滅が5群、巣落ちで逃去が1群、ハチ仲間にあげたのが1群。

現在飼育中は、一昨年から群は0、去年からの群は4群、今年捕獲の5群で9群です。巣箱はコンテナの上に置いて、底板は引き出せるような構造です。下から鏡を差し込み懐中電灯で照らすと中の様子がよく見えるし、掃除もし易いです。継箱は写真のようにパイプ3本に吊上機を付けて、一人作業で持ち上げられます。』

※現在ではもらった群を含め17群を飼育中だそうです。

★中島和さん(熊本県)
より自然巣捕獲の報告を
いただきました。

『①昨年12月29日、熊本
市の蜂友からの連絡で、自
然巣が梅の木にあるとのこ
とで、出向きました。』

自然巣の大きさから重箱
式2段で上の巣落ち防止棒
を外して2段目を巣落ち防
止棒のみとしました。自然
巣の下に重箱式を据えて梅
の木の幹に添って包丁で切
り落とし重箱に確保。巣板
4〜5枚です。巣板と巣板
の間に巣くず、はめ込みを
数ヶ所入れる。ビースペー
ス確保のためです。
そして蜂友の巣箱ごと自
宅の庭に設置出来ました。

自然巣の跡に再度集まった
蜂たち2〜3回網で重箱に
入れる。



③上蓋に小さい巣です。巣
板これから大きくなりず！
丸の穴實の子代わりと7cm
の上の段は設置後翌日に取
り外し天板のみとしました。



計測値は24cm



②下の巣落ち棒に引っ掛か
り上からの写真です、梅の
さんがたく

⑥1月17日、再度盗蜜群で
す。数分で入口に盗蜜群、
凄まじい勢いです。

⑦前回と同様、入口を網
目で塞ぎました。3時間
ほどで収まりました。今
回は重箱移動無しです。
24時間後に網目ネット外
しました(このネットは
自然巣確保して移動の時に
使用したネットです)。



④下からの写真で
す。巣落ち棒に引っ
かかっただけです。
⑤12月30日、ニホ
ンミツバチにより
盗蜜有り。入口を
塞ぎ5m重箱を移
動した。初めて底
板交換して見ると、
盗蜜群と自然巣群
が争い死んだ蜂へ

巣板や巣くずが
落ちています。

※その後、6月には1段取っ
て、フロー
ハイブを上
に乗せ、採
蜜できまし
たとの報告
を中島さん

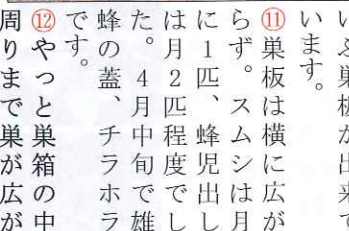


⑧盗蜜24時間後、巣の入口
を解放したら、元の箱の場
所に盗蜜群集合です。
⑨巣箱の周りに盗蜜群残
党が死んでいました。39
匹です。24時間後に自然
巣の蜂たちと合流するか
と思いましたが出て行き
盗蜜群は帰れなく死んだ
ようです。2回災難に合い

弱小群となりましたが、給
餌と代用花粉で4月までに
復活。



⑩4月8日、下からの写真
です。巣落ち防止棒からだ
いぶ巣板が出来て
います。



⑪巣板は横に広が
らず。スムシは月
に1匹、蜂児出し
は月2匹程度でし
た。4月中旬で雄
蜂の蓋、チラホラ
です。
⑫やっと巣箱の中
周りまで巣が広が
りつつある。
あとは5月の分封待ちです。』

からいただきました。



ケアの使い方を教えていた
だきました。ずいぶん
と大胆な施術ですが、
あれはよく効くと思っ
ています。別のグルー
プの若い方ですが、そ
の人も同様の事を話し
ておられました。



また、私一人でも、
別の蜂群にその施術を
やりました。それも効
いたと思っています。
ただ、残念ながら、そ
の群は、分封後の引継
ぎが上手く出来なくて、
今は状態が良くないので、
近日中に一段、採蜜して観
察してみるつもりです。

★天谷浩さん(島根県 石
州ニホンミツバチの会代表)
より、6月末にお手紙をい
ただきました。

『こちらの方は6月27日
に梅雨明けしました。熱中
症警戒アラートが、たびた
び入って来ております。東
北の方はいかがでしょうか。
いつも和蜂に関して適切
なご指導、ありがたく思っ
ています。殊に今
年は、ビーズケア
について諸方から
指導を受けている
ところです。』

こちらでは、浜
田市の宇垣様に来
ていただいて、5
人程が、加藤十四
幸様直伝のビーズ

サルスペリは、夏の
貴重な花粉源です。

事務局より お知らせ

「今年度会費納入のお願いと本のご紹介」

本会の運営は、多くは皆様からの会費により、担われております。また、本会は1月から12月を年度とする暦年制です。毎年の会費（変更有）のお支払いをお願い致します（左下を参照）。

また「日本ミツバチ在来種養蜂の実践」（農文協刊）と、「だれでも飼える日本ミツバチ」（農文協刊）、「ミツバチと暮らし」（無明舎出版刊）も会員特価（各千五百円）で事務局にて販売しています。

★「会員名簿について」
名簿をご希望の方は、「会員名簿申込書」にご記入いただき、事務局へ郵送、またはFAXでお申込みください。
・日本在来種みつばちの会
会員名簿は、会員の同意を得て作成しているものです。名簿には個人情報を含みますので、その取り扱いには細心の注意をいただき、以下について同意の上ご使用願います。本会の趣旨と異なる目的で名簿をご使用の

場合には、配布をお断りする場合がございますのであらかじめご了承ください。

・お申し込み時の目的以外でのご使用は、ご遠慮ください。目的でのご使用が済み次第名簿は返納、または破棄してください。

・名簿の利用は申込者本人のみに限ります。他者への名簿の貸出し・配布・コピー等は、会員同士であってもご遠慮ください。また、名簿が本人以外の者にわたることが無いよう取扱いにはご注意ください。取扱いの違反によるトラブルは、当会では責任を負いかねます。

・名簿を利用して連絡をとる場合には、「日本在来種みつばちの会会員であること」と、「会の承諾を得て名簿を使い、連絡を取ったこと」、「連絡の目的」を必ず相手にお知らせください。

・名簿請求の範囲は、基本的にはお住いの都道府県限定となっております。

★退会をご希望の場合は、電話、メール等で事務局へご一報ください。再入会はいつでも歓迎いたします。

★ミツバチを飼育する場合は「飼育届」を、県をまたいで移動する時は「転飼届」

を各都道府県の担当当局に提出してください。

★「次号のお知らせ」

次回の会報誌は、秋（11月号）を予定しています。

★事務局の藤原がしばらく不在の場合があります。対応の遅れ等、ご容赦くださいますようお願い致します。



エゴノキ



ヤマボウシ



ナツツバキ



フユボダイジュ



ケンボウシン

・今年2月から販売している「ビーズケア」はリピーターの方が多いです。使用した感想をお寄せください。開発者の加藤十四幸さん（福岡県）と直接お話もできます。また、人工キンリョウヘンは、孫分封や逃去にも有効ですので、ご利用ください。

・会だより2月号2ページ2段目の写真撮影者のお名前が埜崎かおるさんとなっていますが、正しくは野崎かおるさんです。大変失礼しました。

★「編集後記」

皆様のご協力のおかげで「会だより」を10号まで発行することができました。私は33号から17年間、担当しました。今後でもできる限り作成してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。いつまでできるかな？盛岡で6月に撮った蜜源花粉源植物で、祝100号！

今年は、40℃頻発の猛暑、山火事、少雨、地震、噴火、津波、豪雨、台風など、日本だけでなく、世界中で自然災害が発生しています。どうぞお気をつけください。他にも、スズメバチや熊、ダニ、ウイルスなどにも。常に油断ならない大変な時代になってきましたね。（事務局 藤原由美子）

ミツバチサミット2025が開催されます！

11月22日（土）～24（月 祝）

茨城県つくば市の「つくば国際会議場」で開催ぜひ、ご参加ください（5月号会だよりを参照）

●ミツバチサミット前売チケット販売

8月3日～9月30日（当日券もあります）

詳細は公式HPで。寄付、協賛も募っています。

主催：ミツバチサミット実行委員会

公式ホームページ <https://bee-summit.jp>

メール office@bee-summit.jp Tel:080-2580-3443

いつもニホンミツバチの保護活動へのご協力、ありがとうございます。先日も群馬県の常木正美さん、熊本県の中島和夫さんにお越し、ニホンミツバチを保護していただきました。分封蜂球、逃去群、すでに巣を作っている群など状況はそれぞれですし、場所も軒下、床下、屋根裏など様々です。盛岡でもお寺の依頼で、7月中旬にお墓のハチを保護しました。藤原会長が3/8の講演会で披露したパーテーションを組んで小屋を作り、その中で数日かけての保護活動になりました。講演会に参加して下さった千葉県の市川清継さんも、実際にパーテーション（写真左）を作ってお墓のハチを



保護していただきました。



盛岡のお墓

ありがとうございます。

会費（3,800円）の納入確認について

会費はぜひ毎年、遅滞なくお支払くださいますようお願い致します。お支払いいただくと、封書の宛名の後ろの年月日が更新されます。例えば R7.5.5は、令和7年5月5日にお支払いいただいたという意味です。更新されていない場合は恐れ入りますが、事務局までお問い合わせください。

〒〇〇〇-〇〇〇〇
〇〇県〇〇市〇〇-〇〇
〇〇〇〇様 (R7.5.5)